

## ヘリコプターによるカシナガ被害調査

カシナガ（正式名：カシノナガキクイムシ）は、健全なブナ科の樹木に飛来し、集中的に木の中に入る害虫で、病原菌を持ち込み、枯死（ナラ枯れ）を引き起こす原因となっています。当センターでは、昨年に引き続き京都府警の協力を得て、ヘリコプターを使用し、石清水八幡宮（八幡市）、浄瑠璃寺（木津川市）とその周辺地域でカシナガ被害調査を実施しました。

両地域では、ナラ枯れ防除対策としてカシナガトラップ<sup>※</sup>を設置しており、トラップ設置範囲に枯死木は見当たりませんでした。確認された枯死木は、石清水八幡宮周辺では昨年の 33 本に対し今年は 5 本、浄瑠璃寺周辺では昨年の 140 本に対し今年は 9 本のみとなりました。

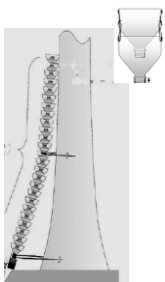
いずれの箇所とも被害はほぼ終息し、カシナガトラップの防除効果が認められました。

今後も必要に応じて早期の防除の対応をしていくこととします。



赤丸：枯死木 白丸：トラップ設置木

### 石清水八幡宮及び浄瑠璃寺の上空からの被害状況



※カシナガトラップ:ペットボトルの先端を重ねたトラップを幹に吊し、健全木の穿孔させたカシナガにより他のカシナガを誘引し、トラップの漏斗に衝突・落下させて大量に捕獲するもの。